

## オガサワラカワラヒワの保全に一步前進

# 横浜市繁殖センターで「カワラヒワ」が繁殖しました

横浜市繁殖センターでは、(公社)日本動物園水族館協会が取り組む「オガサワラカワラヒワ」の保全活動に協力し、令和3年度から「カワラヒワ」の飼育に取り組んでいます。

オガサワラカワラヒワは小笠原諸島のみにも生息するカワラヒワの一種で、生息環境の悪化から、絶滅の危機に瀕しており、現地における保護対策として、野生復帰を目指した飼育下での増殖事業が計画されています。カワラヒワ類の繁殖技術は、1970年代に上野動物園で初めて繁殖しているものの、体系的に確立されていないため、横浜市繁殖センターを含めた(公社)日本動物園水族館協会の加盟施設が協力して、カワラヒワ類の飼育繁殖技術の確立に取り組んでいます。

横浜市繁殖センターでは、令和3年9月からカワラヒワの飼育を開始し、令和4年4月にペアリングを行ったところ、まもなく繁殖行動が確認され、令和4年6月17日には無事に2羽の雛が巣立ちました。

今後も、(公社)日本動物園水族館協会と協力して、カワラヒワの飼育繁殖技術確立に努め、オガサワラカワラヒワの保全を推進します。



カワラヒワ(亜種コカラワヒワ成鳥)



カワラヒワ(巣立った雛)

お問合せ先

環境創造局 公園緑地部 動物園課長 荒原 伸治

Tel 045-671-2607

別紙あり

## 【参考資料】

## カワラヒワについて

学名	<i>Carduelis sinica</i>
分類	スズメ目アトリ科ヒワ属
分布	カムチャッカ半島からサハリン、日本、朝鮮半島、中国東部にかけて分布し、およそ8亜種に分類される。このうち日本には北海道で繁殖するカラフトカワラヒワ ( <i>C.s.sitchitoensis</i> )、本州以南で繁殖するコカワラヒワ ( <i>C.s.minor</i> )、オガサワラ列島で繁殖するオガサワラカワラヒワ ( <i>C.s.kittlitzii</i> ) がいるが、冬季には北からオオカワラヒワ ( <i>C.s.kawarahiba</i> ) が越冬のため全国に飛来する。
生態	平地から山地の農耕地や河川敷、草原など比較的開けた環境を好む。樹木が比較的多い公園や住宅地などでも見られる。北部のものは冬に暖地へ移動する。春から夏にかけて、木の枝に草などで皿状の巣を作って繁殖する。繁殖期以外には群れで生活する。主な食物は草の種子で、太い嘴で器用に殻を剥いて中身を食べる。小さな昆虫類なども食すことがある。
希少性	普通種（オガサワラカワラヒワを除く）
飼育状況	おびひろ動物園、恩賜上野動物園、横浜市繁殖センター、豊橋総合動植物公園、周南市徳山動物園の5園館において、オオカワラヒワ、カラフトカワラヒワ、コカワラヒワの3亜種合計で16羽（オス9羽、メス6羽、性別不明1羽）を飼育（令和4年4月末現在）。横浜市繁殖センターではコカワラヒワ4羽（オス2羽、メス2羽）を飼育。

## オガサワラカワラヒワについて

学名	<i>Carduelis sinica kittlitzii</i>
分類	スズメ目アトリ科ヒワ属 これまでカワラヒワの1亜種とされていたが、最近では、分子生物学的な研究結果に基づき、独立種 ( <i>Carduelis kittlitzii</i> ) であると考えられている。
分布	大きな渡りをしない留鳥で、かつては小笠原諸島と硫黄列島に広く分布していたが、小笠原諸島の婿島、姪島、父島および硫黄列島の北硫黄島と硫黄島では絶滅し、現在生息しているのは母島列島と南硫黄島のみ。
生態	母島列島では乾性低木林のある属島の向島、姉島、妹島で毎年4月頃から繁殖し、5月から8月にかけて母島本島に巣立ち雛と成鳥が集まり群れを形成する。9月から翌年の繁殖期にかけては主に属島で過ごす。ほぼ完全な種子食で、草の実だけでなく樹木の種子もよく食べる。雛の餌となるムニンアオガンビなどの乾性低木林が減少したことが、絶滅の危機に瀕する原因の一つとされる。
希少性	環境省レッドデータブック 絶滅危惧 IA 類 (GR) 国内希少野生動植物種 野生の生息数は100~300羽程度と推定されており、国内の鳥類では最も数の少ない固有種とされています。
飼育状況	令和3年9月に母島で4羽の野生個体（オス2羽、メス2羽）を捕獲。現在父島にある東京都の施設で飼育中（令和4年3月31日現在）

## 横浜市繁殖センターについて

希少動物の保全及び繁殖を通して生物多様性の保全に貢献しています。これまで、カンムリシロムクの野生復帰やカグーやミゾゴイ等の飼育下繁殖に成功してきました。

また、国内の動物園としては初めての研究を目的とした実験設備を備え、希少野生動物の雌雄判別などに関する遺伝子解析や繁殖生理解明のための性ホルモン動態の解析など、「種の保存」に関わる研究を行っています。さらに、横浜市立動物園の動物からの精子、卵子、組織の収集・凍結保存、人工授精等を試み、遺伝資源の保存にも取り組んでいます。

(飼育動物) 14種 477点 令和4年5月末現在

マレーバク、カンムリシロムク、ミゾゴイ、カグー、ツチガエル他



マレーバク



カンムリシロムク



カグー